

情報システム管理系では、職員が使用するパソコン及びシステムの管理や、行政文書の管理、事件の受理件数や処理件数を取りまとめる統計事務を主に行っています。

捜査公判事務や検務事務のように直接事件に関わることは少ないですが、検察庁では、多くの情報をデータによって管理しているため、適切な環境を保つことは必要不可欠な業務です。

昨今では、刑事 IT 化の実現に向けて進んでおり、現在やり取りしている多くの書類をデータ化し、オンラインでのやり取りが主流になっていくことから、今後ますます重要になってくる業務でもあります。

このようにデジタル化が進むと手続等が便利になる反面、パソコンやシステムの不具合の増加が見込まれ、検察庁の業務では時間的な制約が多い中、その不具合を迅速に解決し処理していく対応力や多くの知識が求められます。

それらの知識を身につけることは簡単ではありませんが、職員から不具合の連絡があった際に迅速に対応して感謝されることも多く、とてもやりがいのある仕事です。

また、行政文書の管理は国民からの開示請求に適切に対応すること、統計事務は事件の件数を国民に正確に知らせる材料となる資料を作成すること等、いずれも国家公務員として責任を持って取り組むべき重要な業務です。

情報システム管理系の業務は複雑なものが多いですが、どの部署でも役に立つものばかりなので、自分自身のスキルアップにもつながり、とてもいい経験になっていると感じています。

最初は特にパソコンやシステムに苦手意識がありましたが、研修を受けたり、上司に相談することで知識を習得しながら、日々の業務に取り組んでいます。